（様式１）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ０３４	**提案機関名**	農業技術センター　普及指導部

要望問題名　観光・直売型経営に適応するイチゴ新品種の育成

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

イチゴは野菜価格相場が低下している中でも比較的価格が維持されてきたが、約2年前のリーマンショック以降の不景気の影響で、市場価格が低下してきている。そうした中で、市場中心の出荷・販売形態は後退しつつあり、観光型や直売型の経営が増えてきている。そうした中で、現在栽培されている４品種（さちのか、とちおとめ、章姫、紅ほっぺ）はそれぞれ栽培、品質上の問題点があり、他県で育成された新品種（やよいひめ、ゆめのか、かおり野等）もそれぞれ問題点が指摘されており、今後の普及は未知数である。

したがって、現在でも県内生産者からの県独自のイチゴ新品種育成への期待は大きい。観光・直売型経営にも適応する特性としては①最近増加してきている高設栽培に適応可能であること、②糖度が現在栽培している品種と同程度で、糖酸比が適当で食味がよい、③ポット育苗で12月上旬から収穫可能な早生性があること、④果実の硬さがさちのかやとちおとめと同レベルであり潰れにくいこと、⑤休眠が浅く、章姫や紅ほっぺと同程度の出荷連続性があること、および⑥形状が大粒、色沢良好でパック摘めしやすい形状であることが必要である。これらの特性を持つ系統育成の取り組みを希望する。

なお、従来から行われてきた果実内の赤色が濃い系統の選抜については、現在の普通促成栽培の生産現場では要望がそれほど大きくなく、今後の状況を考慮しても優先順位は低いので、その特性を具有させることで、他の諸形質の改善が難しい場合は、必ずしも内部色を濃くする必要はない。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術センター　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	**担当部所**	野菜作物研究部

対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

新規性・独自性に着目した　かながわ特産品の開発

対応の内容等

本県では、かながわブランドとして特色のあるイチゴの育成を目標に果肉まで赤色に着色する系統を選抜してきました。また、交配育種されたイチゴ品種の特性は交配親の持つ品種特性に大きく依存するため、平成20年度から、近年発表されたイチゴの品種特性検定試験を行い、品種毎の特性や収量性に大きな違いがあることを明らかにしました。このデータに基づいて交配親を選定し、要望にあげられた特性を持つイチゴを育成するよう系統育成及び品種化に取り組みます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	